2021年度　教育研究活動報告書

氏　　名	所　　属	職　　位	学　　位
三浦　卓己	モチベーション行動科学部	講師	修士（経営学）（法政大学）

【1】あなたの今年度の本学での活動を以下の項目にしたがって文章でまとめてください。

[1-1]自己評価　①教育 ②研究 ③社会貢献 ④学内運営に沿って書いてください（1200字程度）

1）教育

「マーケティング（春：67名、講義）」：新1年生向けの科目であることを意識しアクティブ・ラーニングを心掛けた進行を目指し、まずは自分の考えをまとめてからグループディスカッションに参加するような授業構成をおこなった。また、第14回授業では、SDGsを取り入れている企業を取り上げ、成功要因を考えさせた。その結果、授業評価アンケートの満足度の評価：4.42（全学の平均：4.38）、推奨度の評価：4.42（全体の平均：4.23）と全学平均を上回ることができた。「消費者の行動と心理（春：94名、講義）」：消費者行動という概念的な内容の多い科目であることから具体的な事例を用いて授業を行った。その結果、授業評価アンケートの満足度評価：4.43（全学の平均：4.38）、推奨度の評価：4.47（全体の平均：4.23）と全学平均を上回ることができた。他には、「基礎演習Ⅰ（春：78名、演習）」、「暮らしと流通（秋：62名、講義）」、「売り場の科学（秋：59名、講義）」、「基礎演習Ⅱ（春：78名、演習）」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ（春・秋：8名、演習）」、「卒業論文（研究）（春・秋：4名、演習）」を担当した。

2）研究

本年度は、単著2冊、論文1編（共著1編）、発表1回（共同）行った。書籍は、授業テキストで使用することを目的に、初学者を対象に消費者行動全般についての理論や概念を体系的にまとめた。単著、『ゼロからの消費者行動入門』、（2022年3月刊行、175頁、現代図書出版）、単著、『株式会社ABS：新たなる挑戦』を執筆した。研究活動では、共著、査読有、「アカデミック・スキルの育成を目指す初年度教育における利用価値介入の提案」、東京未来大学研究紀要に掲載された。学会発表は、共同、「アカデミック・スキルの育成を目指した初年次教育の取り組みー学修内容の価値の認知と理解度との関連」、日本心理学会第85回大会をポスター発表した。研究活動資金の獲得では、2021年度特別研究助成金（東京未来大学）「知名度が低い地域でもブランド構築は可能かー購入意向を中心とした実証研究ー」において15万円獲得し、調査、分析を行った。

3）社会貢献

本年度は、昨年度に続き、株式会社Passionate Genius様の社外取締役として経営全般の方針決定に携わった。活動頻度は、月1度の面談および適宜メールやオンラインで対応した。他には、第一線で活躍する企業家やビジネスパーソンのための会員制番組であるBusiness Breakthrough Ch様より、全9回シリーズの番組製作依頼があり、企画構成・出演した。企業に対する認知度向上を目的とし、今後10年間番組視聴が可能である。また、株式会社ビジネス・ブレークスルー様の法人研修講師『ゼロからのマーケティング入門』を行った。

4）学内運営

1学年の担任として、学業に対する各種相談対応や、オリエンテーション、第14回未来祭企画（学園祭）プレゼンテーション大会の企画書及び報告書に対して、相談やフィードバックを行った。学生生活委員として、コロナ禍における第14回未来祭（学園祭）の安全な実施に向けて、内容、動線の検討、提案、本番は2日間参加した。他にも、自己点検取組計画に基づき、各内容の検討、審議、提言を行った。キャリアセンター管理運営委員では、学生の就職活動の実態把握と情報伝達を行った。教育改善向上委員会から依頼された『FD年報論文』の査読を行った。卒業論文（研究）担当者として、2021年度卒業論文の発表内容、方法、日程、管理方法などを企画、調整、審議を行った。2022年度入学生募集総合選抜（ＡＩ）で面接官を行った。広報活動として、モチベーション行動科学部WebDMとして「なんで流行りに乗っちゃうの？流行りのメカニズム」の執筆を行った。また、大学案内パンフレット用に、ゼミの紹介と写真撮影を行った。

[1-2]今後の目標と計画　①教育 ②研究 ③社会貢献 ④学内運営に沿って書いてください(800字程度)

1）教育

学生達の習熟度や興味の対象を意識して、より良い授業となるよう、既存の科目に関してはアクティブ・ラーニングやSDGsの学習を交えて、これまでの計画を改善していきたい。また、学生たちにとって、卒業後実社会で役に立つ学習を身につけてもらうことを視野に入れ、ゼミにおいては外部機関との連携を計画・実行していきたい。特に、モチベーションの向上や維持という心・マインドの醸成に力を入れていきたいと考える。

2）研究

次年度は、共著、『ベーシック経営学-学びのとびらー』、（2022年4月刊行予定、193頁予定、ムリスリ出版）、担当は「第5章　マーケティングのプロセス」、「第11章　企業と財務管理」、「第12章　財務報告と企業監査」の刊行を目指す。研究活動では、現在進めている共著、「Jリーグクラブにおけるグッズ購買の規定要因：コロナ禍以降のサポーター行動に着目した実証分析」を学術誌に投稿する計画である。

3）社会貢献

現在の活動を継続したいと考える。特に、学生たちが第一線で活躍する社会人との接点が増やせるよう、企業との連携を開拓し、実践につなげていく予定である。その結果、本学の知名度向上を図りたいと考える。

4）学内運営

現在の活動を継続していきたい。

【2】社会活動（学会、研究会、法人、自治体等） 2021年度

社会活動				
分類	機関名・企業等名	役職等名	就任年月	退任年月
学会	日本マーケティング学会	学会員	2017.6	現在に至る
	日本観光研究学会	学会員	2017.12	現在に至る
	日本比較文化学会	学会員	2018.4	現在に至る
	日本消費者行動研究学会	学会員	2020.6	現在に至る
	観光情報学会	学会員	2021.06	現在に至る
研究会	スポーツマーケティング研究会		2021.04	現在に至る
	地域ブランド研究会		2021.04	現在に至る
その他	株式会社 Passionate Genius	社外取締役	2020.12	現在に至る

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
学生生活委員会	委員	2020.04	現在に至る
キャリアセンター管理運営委員会	委員	2020.04	現在に至る

担当授業科目
消費者の行動と心理(通・信)
ゲーム理論(信)
暮らしと流通(通・信)
マーケティング(通・信)
売場の科学(通)
マーケティング戦略(信)
専門演習Ⅰ(通)
専門演習Ⅱ(通)
基礎演習Ⅰ(通)
基礎演習Ⅱ(通)
卒業研究(通)

【3-1】著書・論文・社会活動（その他） 2021年度

分類	著書、学術論文等の名称	著者名	単著共著の別	発行又は発表年月	発行所、発行雑誌又は発表学会等の名称	概要
著書	ゼロからの消費者行動入門	三浦卓己	単著	2022.03	現代図書出版	消費者行動初学者の学習理解を深めることを目的に執筆した。消費者行動全般についての理論や概念を体系的にまとめ、事例研究によって理論を補強した。授業の指定図書として使用する予定である。全175頁。
著書	株式会社ABS 2020：新たなる挑戦	三浦卓己	単著	2021.04	日本ケースセンター	日本最大級の起業家教育機関である株式会社ABSの事例を通じて、マーケティングの枠組みを理解することを目的に執筆した。インタビュー調査と文献調査によって理論構築を行った。全17頁。
著書	[Teaching Note]株式会社ABS 2020：新たなる挑戦	三浦卓己	単著	2021.04	日本ケースセンター	事例を通じてマーケティングの枠組みを理解する解説書として執筆した。全4頁。
学術論文	アカデミック・スキルの育成を目指す初年度教育における利用価値介入の提案	小林寛子・杉本雅彦・田澤佳昭・鈴木亮太・三浦卓己・石橋里美	共著	2022.03	東京未来大学研究紀要	アカデミック・スキルの育成を目指し、その利用価値の認知に働きかける初年次教育の授業を提案し、効果検証を行った（査読あり）。

学会発表	アカデミック・スキルの育成を目指した初年次教育の取り組み－学修内容の価値の認知と理解度との関連	小林寛子・杉本雅彦・田澤佳昭・鈴木亮太・三浦卓己・石橋里美	共同	2021.09	日本心理学会第85回大会	アカデミック・スキルの育成を目指した初年次教育の取り組みとして、学修内容の価値の認知と理解度との関連について報告した（ポスター発表）。
その他（セミナー）	アカデミックキャリアへの挑戦：MBAから転換した修了生の座談会	三浦卓己	共同	2021.10	法政大学	社会人学生から大学教員に転換するにあたり、現在おこなっている教員の業務内容や学生時代に実践してきた仕事と研究の両立の仕方、論文を取り組むにあたっての心構えなどについて、出演者として登壇した。
その他（番組）	ゼロからのマーケティング入門	三浦卓己	単独	2021.09	Business Breakthrough Ch	大前研一開局・第一線で活躍する企業家やビジネスパーソンのための会員制番組である。マーケティングについて全9回シリーズで解説した。番組は10年間放送される。
その他（広報）	なんで流行りに乗っちゃうの？流行りのメカニズム	三浦卓己	その他	2021.07	リクルート・スタディサプリ	マーケティングの視点から流行に至るメカニズムについて概説した。

【3-2】研究資金獲得状況　2021年度

分類	研究費名称	機関・財団等	代表分担の別	研究課題名	採択金額 （円）
学内	東京未来大学特別研究助成金	東京未来大学	代表	知名度が低い地域でもブランド構築は可能か－購入意向を中心とした実証研究－	150,000

【3-3】受賞・表彰

受賞者名（連名も含む）	名称	機関・財団等	年　　月
なし			